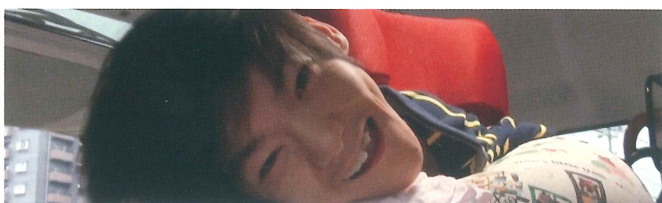


前作『普通に生きる』が世に対する問題提起だとしたら、その続編であり新作の『普通に死ぬ』は、死を見つめ追うことで、この世に暮らす私たち全ての「生」を照らし出した強烈なカウンターパンチだと思ふ。福祉、医療、少子高齢化、社会制度、資本主義、現代社会が抱えている問題を、障害児の暮らしを通して見事に私たちの目の前に並べてみせた。

だれかが決めた普通じゃなくて  
その人の普通をその人らしく生きられたらいい  
これは地域で、たくさんの人に支えられて、支え、  
いのちを尽くして生き合う人たちの記録



生きて、生きて、生きて、  
普通に生きて

第25回  
あいち国際女性映画祭2020  
招待作品

# 普通に死ぬ

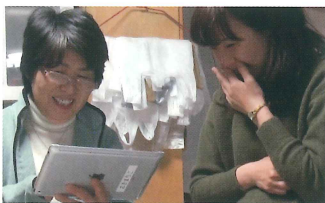
～いのちの自立～

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編

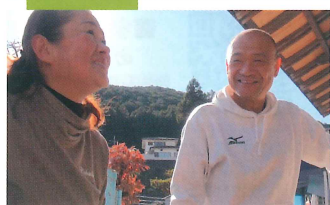
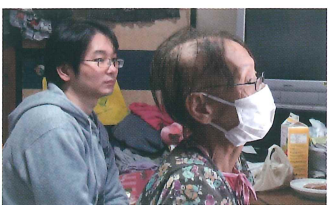


その人らしく生きてその人らしく死ぬ。この映画はガチガチに固まった既成概念や正論に縛られ、身動きしづらくなっている私たちに、新しい考え方を提示してくれる希望の作品だった。

©2020/長編ドキュメンタリー映画/  
HD/カラー/119分  
製作: motherbird・Cinema Sound Works  
著作・配給: motherbird  
録音: 中山隆匡  
音楽: 木-Kodama- 霊  
ナレーター: 余貴美子  
プロデューサー: 梨木かおり/ 貞末麻哉子  
監督・撮影・構成・編集: 貞末麻哉子



年齢を重ねてゆく重い障がいがある人とその家族…。在宅生活の中心的ケアが病に倒れると、残された医療的ケアの必要な人が、生まれ育った「地域で生ききる」ことはなぜこれほどまでに困難なのか。前作『普通に生きる』から十年。家族と支援者の葛藤や気付き、「一緒に生き合う」取り組みを追い、厳しい現実から希望を見出すドキュメンタリー。



生きて、生きて、生きて、生きて、普通に生きて

いのちの自立

普通に生きて

公式サイト <https://www.motherbird.net/~ikiru2>

前作『普通に生きる～自立をめざして～』では、「どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きる」という理念のもと、重症心身障害児・者と呼ばれる人たちの家族で起ち上げた社会福祉法人が、静岡県富士市と富士宮市にふたつの通所施設（生活介護事業所）〈でら～と〉と〈らぼ～と〉を開所させる五年間を追いました。

法制度の改革の波に揉まれつつも「福祉の受け手から担い手となる」発想で行政に働きかけて、理事である親たちは、自分たちのニーズに合った制度やサービスをつくりあげてゆきました。

続編となる本作『普通に死ぬ～いのちの自立～』は、その後、グループホームの開所や、設立十年を迎えて次第に変わりゆく運営方針や、3つ目の事業所建設という流れの中で、年齢を重ねてゆく本人とその家族を八年にわた

って撮影しました。その途中、「医療的ケア」を必要とする人の、在宅生活の中心的ケアラーであった母親が病に倒れます。残された子の母亡き後の地域生活…そこには厳しい現実がありました。

なぜ、医療的ケアが必要だと、「地域で生きる」ことが難しいのか。なぜこの人たちの生活や人生が社会が障害することになってしまうのか…。

映画は厳しい現実を見据えつつ、後半、家族と支援者、医療者の葛藤や気付きを物語の軸に、兵庫県へと、希望を探して旅に出ます。

そこには、伊丹市で〈しえあ〜ど〉を率いる李国本修慈さんと、西宮市で〈青葉園〉を率いる清水明彦さんらの重ねてきた地道な活動がありました。軽快でしなやかで、しかしとても健やかに人生を賭けて、真正面から繰り広げられている「一緒に生き合う」取り組みがありました。

この映画は障害児とその家族を追ったドキュメンタリーではあるが、そこから見えにくるものはリアルな私たちの生活である。懸命に毎日を生きる人々の営みを、長い時間にかけて信頼関係を築きあげて創られた『普通に死ぬ』。そこに障害者も健常者もない、障害者とその人の人生を尊厳を持つて生き、死ぬことのできる社会は、きっとその人の人生も輝かせる社会だ。



普通に死ぬ  
～いのちの自立～

■この著作の配給・ご購入等に関するお問合せは ■ マザーバード ■ motherbird ■ <https://www.motherbird.net>  
 ■TEL & FAX: 03-6913-5591 / e-mail: office@motherbird.net ■ <https://www.motherbird.net>



「普通に死ぬ～いのちの自立～」映画上映会とフリートーク **入場無料**

第一部「普通に死ぬ～いのちの自立～」上映会 / 第二部 貞末麻哉子監督、貞末貞末麻哉子監督、李国本修慈氏、清水明彦氏によるフリートーク

日時：2021年 **12月3日** **金** 開場 11:30 開映 12:00 終演 15:30

会場：高砂市文化保健センター中ホール(ぼっくりんホール) (定員143名)  
 兵庫県高砂市高砂町朝日町1丁目2-2番1号



■参加ご予約は、右のQRコード又は、<https://takasago-uninavi.com> から申込みサイトへアクセスし、必要事項をご入力の上、お申込み下さい。お申込み完了後、ご入場用QRコードをメールにて送信します。

主催：高砂ユニナビ運営事務局(高砂市障がい者自立支援協議会) 連絡先：TEL: 079-240-6720 / FAX: 079-240-6721

※感染症対策について 感染拡大予防の趣旨をご理解いただき、以下の通りご協力をお願いいたします。■発熱、咳、くしゃみ、全身痛、下痢などの症状がある場合はご入場できません。■感染防止の為、マスクのご着用をお願い致します。■入場口に消毒用アルコールの設置を致します。十分な感染対策にご協力ください。■会場にて万が一体調が悪くなった場合、我慢なさらずに速やかにお近くのスタッフにお声がけください。また、万一例に備え、入場者名簿(氏名・電話番号)のご記入をお願いいたします。名簿は二週間後に廃棄いたします。